

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



2014年を新たな介護事業分野に チャレンジする年に

遅まきながら読者の皆様、明けましておめでとうございます。おかげ様で潮騒 JTC も比較的穏やかに新年を迎えることができました。さて今年は継続助成を頂いている潮騒ファイザープロジェクトの最終年(3年目)として締めくくりの年なので、実り多いものにしたいと思います。ただ、就労支援はこれからが本番です。せっかく3年間にわたり浄財を頂いて基盤作りをしてきたので、これが成果につながるように一層、努力していきます。

また、前号でも触れましたが行き場のない複合的依存や認知症を併発した高齢の依存症者を対象とした、老人ホーム的な機能を持つ新たなケア施設の整備にも道筋をつけたい考えです。高齢者介護の専門家ではない私たちですから、ここは“プロ”の手を借りなければなりません。手順としては、従来通り手ごろな物件を入手し、改修工事(この経費もばかになりません!)をして、対象者に入寮してもらいます。そこを生活空間として定着させ、地域の理解を得ながら少しずつ施設としての陣容を整えることになります。

ですから、「雨風がしのげる空間に机とイス、コーヒークップがあればいい」という、これまでのダルクの単純なやり方では立ち行かない難しさがあります。何しろ入寮者の多くが回復プログラム(12ステップ)の取り組みが難しい人たちです。肝心のミーティング(グループセラピー)が成立しないのです。これをフォローする新たな回復のプログラム開発と、それに沿う具体的な指導ノウハウの確立、そして医療・福祉・介護の“プロ”との連携が必要不可欠です。この未開拓の分野はやりようによっては、潮騒 JTC が取り組む依存症者の職業訓練と就労支援につながる要素を含んでいます。立場上は介護される者と介護する者だとしても、同じ病気を持つ当事者ですから、気持ちが通じ合えやすいのです。ヘルパーなどの資格を得て、施設内での介護事業が成立するならば自前で新たな雇用が生み出せます。

ただ、本音を言わせてもらえば、「これは本来国がやるべき仕事ではないか」「どうして公的な補助のない貧しい民間施設が尻拭いをしなければならないのか」という複雑な感情も否定できません。でも、愚痴を言ってもしょうがありません。目の前で苦しむ高齢依存症者を、私は同じ依存症の仲間として見て見ぬふりはできません。それに私もいつ同じような症状に陥るか分かりません。私にとっては「百年河清を俟つ」議論や首からぶらさげた理屈や理論、硬直した制度よりも目の前の現実の方が重たいのです。どこまで行けるか分かりませんが、今年はこの難題にチャレンジしたいと考えています。

(施設長 栗原 豊)



あけましておめでとうございます



潮騒の仲間たちが鹿島神宮に初詣で ～午後は施設新年会でカラオケ交流も

潮騒 JTC の仲間たちが1月4日、鹿嶋市宮中のダイケア施設の近くにある鹿島神宮に初詣でを実施し、2014年の決意を込めてアルコールや薬物、ギャンブル依存症の回復を誓い合い、参拝しました。午後には恒例の「潮騒新年会」が同施設で開かれ、栗原施設長が年頭のあいさつで待たなしの高齢者問題に取り組む決意を示し、入寮者がカラオケで盛り上がりました。

新年を迎えての鹿島神宮初詣と新年会は年頭の恒例イベント。剣豪・塚原ト伝や「鹿島立ち」で知られる鹿島神宮は初詣でスポットとしても人気を誇る武勲の神様です。潮騒 JTC では地の利を生かして年間行事の始まりに位置づけています。今年も潮騒の仲間たちが、境内で

全員の記念撮影をしてから本殿前で手を合わせ、その後は露店で買い物をしたり、新年から楽しげな表情を見せていました。

午後はダイケアで新年会。仲間たちからも「去年はすべて(スリッパ)ばっかりだったので、今年はすべらずに行きたい」「今年は年男だけど、クリーンを続けたいと思います」などの抱負が聞かれました。

恒例のカラオケ大会では、歌い手に向かってアルコール依存症のコバさんが「ここはジョブだからみんな『じょうぶ』になってかえりましょう」などの、得意の親父ギャグ(駄洒落)を駆使し、温かみのあるコメントを加えていました。この他、「ワサビ&カラシ入りシュークリームのルーレット」や「パンストをかぶっつの引っ張り合い」など、初笑いを誘うゲームも行われました。

(勝)



師走の風物詩「潮騒餅つき大会」盛り上がる
お雑煮やきなこ、あんこ、納豆餅も人気に

年の瀬の昨年12月26日と28日に、鹿嶋市宮津台の潮騒JTC本部施設で年末恒例の餅つき大会が開かれました。入寮者の皆さんがつきたての餅を雑煮などにして食べ、ひと足早く正月気分を味わったほか、今年は潮騒8周年フォーラムでエイサー（琉球太鼓）の舞台を盛り上げてくれた関東各地のダルクにもダイコン、ニンジン、ヤツガシラなど雑煮用の食材とともにのし餅を贈り、大いに喜ばれました。

すっかり師走の風物詩となった感のある潮騒餅つき大会ですが、その量の多さから2日に分けて実施され、これまでのように入寮者の人力による餅つきが難しくなっており多くを機械に頼りました。26日はダルクや支援者に向けてもち米90kgを、28日には主に施設の入寮者向けに120kgの餅をつきました。餅つき機によるものとはいえ、入寮者の皆さんは施設駐車場がつきたての餅をほおばり、おいしさもひとしおの様子でした。

とりわけ28日には、本部施設の駐車場で入寮者全員が参加し、それぞれ役割分担してもち米を蒸したり、用意した臼と杵でついたりで大忙しでした。もち米が蒸しあ

がると、もち米を臼の中に入れて、杵である程度こねてから餅つきを開始。餅つき経験豊富な先輩らが初めて餅つきをする入寮者に餅つきのコツや餅のひっくり返し方などを教えていました。

つき上がったお餅は、さっそく餅取り粉がまぶされ、お供え用の鏡餅やのし餅に仕上げられました。次々と餅ができ上がると、関東風お雑煮やあんこ、きな粉、大根おろし、納豆餅に味付けされ、潮騒の入寮者に配られました。仲間たちは雑煮や様々な味の餅に舌鼓を打ち、一足早いお正月気分を味わっていました。

この日は各種イベントや秋祭りなどに出演して腕を磨いている屋台の焼きそばも用意され、餅に飽きた入寮者らは盛んに食していました。こうした行き届いた配慮も手伝って、いつもなら残る餅が、今回分に限ってはほぼ“完食”となるほどの人気でした。

栗原施設長は「これだけ大所帯になると、みんなが一堂に会しての取り組みは準備がとて大変。でも、季節感のある行事だけに大事にしたい。皆さん家族の元には戻れない人たちばかりなので、擬似家族だとしても潮騒の仲間たちと一緒に餅をつき、“潮騒餅”を食べて、いい正月を迎えたい」と話していました。



ファイザープログラム

「プログラムとスポンサー、仲間が仕事を可能にする」

病院職員の藤田さんが就労講座で希望のメッセージ

12ステップ・スポンサー・仲間の重要性を指摘し、
潮騒JTCが取り組む就労支援活動でも
依存症回復の原点を力説した藤田良さん



「私たちには信じられる回復プログラムとスポンサーシップ、それに仲間が与えられている」ー。潮騒ファイザープロジェクトの通算第8回(2013年最終回)となる就労支援実践講座が昨年12月20日、鹿嶋市宮中のまちづくり市民センターで開かれました。講師を務めたのはアルコール依存症の回復者で、潮騒JTCがメッセージを届けている秋元病院(千葉県鎌ヶ谷市)ケースワーカーの藤田良さん。アルコールの当事者として苦渋に満ちた過去の体験を交えながら、自ら作成したパワーポイントを使って、依存症のメカニズムや回復の道筋などを分かりやすく解説し、依存症者の就労問題で貴重なアドバイスをしてくれました。

この日の講話で藤田さんは、ご自身の体験談を差し挟みながら主にアルコール依存症のメカニズムを遺伝や感情、認知、身体、精神障害など多面的に解きほぐし、後半では就労に向けて回復プログラム・スポンサーシップ・仲間の存在が大事なポイントであることを力説。日頃から交流のある藤田さんだけに、入寮者と活発な意見交換があり、2013年の締めくくりに応じたい講座となりました。

藤田さんは、自らアルコール依存症であることをカミングアウトして現在、秋元病院の地域医療連携室で相談員として働いています。その関わりから、「年をとってお酒を切ると認知症に移行する人が多くなる」「糖尿病は食べ物に対する立派な依存症。食べ物のコントロールができないとアルコールもコントロールできない」「アルコール依存症者は食道がんや咽頭がん、口腔がんになりやすい」「アルコール依存症者には、そうなる遺伝子がある。飲酒運転する人はほとんどが依存症」など注意を促しました。

藤田さんは昭和39年、札幌市生まれ。父親はアルコール依存症者ではなかったものの、飲むとおかしくなる問題飲酒をかかえていました。その資質を受け継ぎ高校

時代から飲酒が始まり、20歳頃には立派な？ 依存症者となり、飲んでブラックアウトを起こしました。なんとか高校を卒業し、上京して大学に入ったものの、下宿で飲んだくれの生活を送り、「バイトしては酒飲むために大学に入ったようなもの」と振り返りました。

そうした破壊的な生活が続き、「30歳頃には誰にも相手にされなくなった」状況を見かねた父親が実家に連れ戻しました。でも依存症の治療がなされていないため、アルバイト先で何度もトラブルを起こし、やがて父親を殴るようになりました。33歳の時に父親のつてを頼って埼玉県岩槻市で仕事に就いたものの、飲酒は止まらずに酒酔い運転の自転車事故で大怪我をして入院。そこで連続飲酒となって精神科病院に転院しますが、底つきには至らずに1年後には再入院します。この時には「手足を縛られて安定剤の点滴を打たれ、ああこれで死ぬなあと思った」と辛い過去を振り返りました。

結果的に、この2度目の入院が“底つき”体験となり、藤田さんはケースワーカーの助言で生活保護を受給。デイケアに通い、AAにつながって本格的に回復プログラ

ムに取り組み、やがて千葉県内のテーマパークで働けるまでに回復。5年間仕事をしながら着実にステップを踏み、仲間やスポンサーに助けられて人間的にも成長しました。その後、縁あって秋元病院に職員として就職し、6年前には同病院で父親の最期をみとる「埋め合わせ」もできました。現在まで、14年間クリーンを続けています。

藤田さんは「生活保護の2年間でプログラムの勉強やメッセージを徹底してできたことが大きい」として依存症者の就労問題について次のように言及しました――。



「施設でのリハビリを経て運良く社会復帰して仕事に就いても、人間関係やいろんな問題に直面する。その際に大事なのは回復の基本であるステップを実践すること。私たちの場合、就労して直面するのは多くの場合、仕事がついとかが技術がないとか、賃金が安いとかよりも、仕事場での人間関係のつまづき。この時にどれだけうまくプログラムが使えるかがポイントです」

「私たちの生涯テーマは“アルコールをやめ続けることを続けること”。そのためには、人の話にきちんと聞く耳を持ち、人への恨みや怒りの感情は自分の問題だと気づくこと。棚卸しを何度でもして、埋め合わせをしていくこと。12ステップを信じてスポンサーシップや仲間とのフェロシップをとっていけば、就労にも道は開けるし、仕事を続けることもできる」

「今、皆さんは潮騒でその入り口に立ってステップに励んでおられるわけです。NA・AA・GAなどのプログラムを自分の懐に入れて、今与えられている環境に感謝しながら、仕事に就いて施設を出て行ってほしい。幸運にも施設につなげて回復できたことに感謝し、ステップを今現在苦しんでいる未知の仲間にも手渡しをしてほしい」



Pfizer Program

鹿島神宮参道商店街の青空市に出展

エイサー演舞披露
NHKがニュースで放送



潮騒JTCで事務を担当する女性職員から、「地元の市民団体が取り組む朝市があるみたいです。参加しますか?」との有難い情報を得て、鹿島神宮前での直売イベントに参加しました。潮騒ファイザー農業プロジェクトでも柱の活動に位置づけており、それまでの流れもあって今回は比較的スムーズに取り組みました。

直売イベントが開かれたのは昨年12月23日の祭日(天皇誕生日)。参加したグループは、早朝から鹿島神宮参道商店街の青空市に出展し、収穫したばかりの取れたての新鮮野菜などを数多く並べました。土が付いたままの野菜や規格にとらわれない野菜など、ワイルド感が“売り”でスーパーに並ぶ野菜類とは異なる味を出していました。口コミだけという手作りの情報で集まったお客さんも大いに喜んでくれました。数は少なかったですが、次につながる大事なイベントでした。

今回のイベントでは代表者に自分たちの活動を伝えたら、「じゃあ太鼓演奏をやっていいですよ」と快諾を得たので、当初予定にはなかった潮騒太鼓メンバーによる「鹿嶋琉球太鼓(エイサー)」演舞も披露することになりました。

同日はNHKの取材が入り、その夜の茨城ニュースで放送されました。テレビを視聴していた人からは「テレビ見たよ」という連絡がたくさん入り、参加メンバーらは大いに励まされました。こうした経験を積み重ねて、潮騒の太鼓隊や農業隊では農産物直売活動のノウハウを蓄積していきたい考えです。

(か)

今月のイベント参加報告

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

年末恒例のクリスマスイベント 農業自然体メンバーが圧巻の女装パフォーマンス

新年に入って掲載タイミングが遅れましたが、昨年暮れ（12月25日）に鹿嶋市宮中の潮騒アディクションケアセンター（デイケア）で恒例のクリスマスイベントが開かれ、カラオケ大会や趣向を凝らした出し物で大いに盛り上がり、入寮者の皆さんが楽しい時間を過ごしました。

会場のIMコーポレーションビル3階大フロアでは入寮者の皆さんがケーキやチキン、お菓子などでクリスマス気分を味わいながら、前半は歌に自信のある入寮者の皆さんがカラオケで自慢ののどを披露しました。歌唱力のある横浜ダルクの皆さんも加わり、演歌からポップスまで幅広い歌が披露されました。

マイクを持ったメンバーたちは簡単に1年を振り返り、「今年は何度かすべてしまったが、来年はクリーン期間を延ばしたい」など決意を込めながら、熱唱していました。ステージでは刑務所からつながって間もない入寮者や、元自衛官だったメンバーの歌のうまさが目

立ちました。若い入寮者たちは“ノリ”のよい今風の曲で、入寮者の注目を集めていました。

ほかにも女性メンバーによるハンドベル演奏や潮騒JTCが日頃お世話になっている「すみれクリニック」の看護師グループによる今風の若者たちのダンスを取り入れたパフォーマンスも人気でした。圧巻は農業自然体メンバーの皆さんによる女装のパフォーマンス。度肝を抜く妖艶な化粧と豊かな肉体美？によってすっかり“女性”になりきり、会場から盛んな拍手を受けていました。人気のエイサーの舞台も日頃の練習の甲斐あって技量アップを感じさせました。

また、農業自然体メンバーには、潮騒農場で収穫、販売して得られたニンジン販売の収益金が、小額ながらも作業労賃代わりに報奨金として贈呈されました。また、頑張って運転免許を取得したメンバーには施設用の自動車運転が特別に許可されました。今後、農場との往復で活躍することが期待されます。

なお、この日は午前中にボーリング大会があり、入寮者同士交流を深めながら、ゲームを楽しみました。

（ヒトシ）



受刑者からの手紙

「しおさい俳壇」とともに潮騒通信を特徴づけるのが、この「受刑者の手紙」です。外部とのコミュニケーションに渴望している皆さんの生の声はとても貴重です。手紙は全て目を通していますが、ほんの一部しか掲載できないのが悩みです。受刑者の皆さん、めげずに頑張ってください。（ユタカ）

栗原施設長から深い啓示を受け救われる

お元気ですか。何事にも（依存症の）回復者のために時間を惜しまずに、また回復者の手本となる栗原施設長の姿勢には頭が下がります。この2年間、お便りを頂いた数々の励ましの言葉に導かれ、私も大いに勇気付けられています。「まず自分がアディクトであることを受け入れることから始めてください」との教示から（回復の指標となる）12ステッププログラムのパンフレットを送って頂いた折に、「1～7までを毎日読んでください。何か変化が起こるかもしれません」という温かいお言葉に、すいぶん救われたことを思い出します。

そんな私も近頃はサボリ癖がついて、毎日読むようなこともしなくなってしまいました。当然ながら堀の中は覚醒剤が無い世界なので、いつの間にか（自力で）やめられたような錯覚に陥り、気持ちが慢心していたようです。そう気づかされたのは、社会復帰を目の前にした現在、改めて覚醒剤との対峙にあれこれ不安を覚えるようになったからです。施設長のお話の中に、「恨みのリストに載せた刑務所は感謝のリストに移動しましょう。私の今の生き方の基本の裏側は、刑務所の生活から始まっています」との言葉に深い啓示を受けたからです。

施設長が過去の否定的な人生と決別するのに相当に悩み苦しんだことは、自分の経験からも容易に想像できます。何しろ任侠道の世界で生きてきたこと、それがすべてであり、例え歪んだ誇りだったとしても、それを捨て去るのは至難の業だったと思います。私も同じようにプライドを捨てきれず、どうしようもない過去にしがみつき、覚醒剤でボロボロになった自分を哀れむどころか、そんな人生でも悪いことばかりではなかったと強がり、うそぶく自分がいたことに気づいたのです。どうしようもなくなっている自分を認めるのが、ただただ悔しく、何もかも台無しにして生きてきた自分を捨て去ることが何より恐ろしかったのです。

でも、栗原施設長とのこのご縁を契機に、そうした自分に反省を加えるまでに成長してきたのも間違いありません。そうは言っても今の私は、どうしようもない

自分を気づかぬようにしてきたダメな自分の存在やっ
と認めた段階に過ぎません。依存症の回復がそう簡単なものではないことは私も十分に承知しています。そうした過去と正直に向き合いながら今後、覚醒剤を本当にやめていく一生の取り組みが、とても険しい道のりであることも今の自分は分かっているつもりです。

私の心の中に一番残った施設長のお話ですが、「私は自分の意志に従って覚醒剤を使い続けた結果、薬物依存症になってしまいました。自分の意志に従っている限り、回復はありません。依存症の回復は自分の意志の無力を認め、自分を超越する“神の意志（＝ハイパーパワー）”に身をゆだねること。そして得られる新たな人生の喜び、優しさ、思いやり、自制心、忍耐力、謙遜、誠実などが、本当に自己を変えていく原動力になり、自己改善につながっていくのです」というご指摘は心に深く響きました。

そして「依存症という病気は魔物です。誤った意志によって自分を壊し続けます。だから私の意志は壊れています。そう認めざるを得ません。この意志破壊のプロセスこそが、依存症そのものの正体なのです。私はそう理解しています。ですので、過去の生き方から自分をいかに改善できるかが、回復のかぎを握るともいえます。ふだんからの自己改善の努力を怠ると、たやすく元の薬物依存症者に逆戻りです」とも綴られていました。

この“自己改善”については、今回の服役でたまたま班長という、多くの同僚にかかわる立場の役を頂いたもので、同僚者間のかかわりでは“神の意志”というものを大いに使わせて頂き、また私には似合わない謙虚さと誠実さで周囲に向かい合うことができ、一度のトラブルもなく役目を果たせました。これまでの服役から同僚者間のトラブルを起こさなかったのは初めてです。この結果だけみても、“自己改善”の良い勉強ができたと考えております。概ねこの2年、心静かに落ち着いて生活を営めたのは、栗原施設長からのたくさんのお便りの結果と、ただただ感謝する次第です。

（北海道 K・T）

しおさい俳壇

1月のお題

初春

わが俳句人生の歩み・No.3

施設長 栗原 豊

裁判で有罪となった私は宇都宮拘置所から府中刑務所に移送になり、受刑生活が始まりました。「せっかく覚えた俳句ともこれでお別れか」と諦めかけたところ、刑務所で月に一度開かれる受刑者の俳句クラブに入会できました。そして特殊面接員の俳句の先生(俳号を「ひろし」と名乗っていました)から、俳句について幅広く手ほどきを受ける幸運を得たのです。私は刑務所で、奥の深い俳句の世界の魅力にさらに引かれていきました。

当時、全国の受刑者向けに「人(ひと)」という文芸新聞が発行されていました。随想や創作、俳句、短歌など刑務所内の文芸愛好者に人気がありましたが、どこにも悪知恵が働く者はいるもので、作品の中に自分たちで分かる暗号のような表現を使って連絡手段に使っていたことが分かり、これが問題となったようで、残念なことにいつの間にか廃刊になってしまいました。

コウジ

道真を知らぬ子ばかり天満書

天満書（てんまがき）は書初めのことで、特に京都の北野天満宮で正月二日から四日に行うのを云う。それは菅原道真公が平安時代の文章博士でありそれにあやかる思いで書初めをして納めたり受験の合格など祈る。現代の子は故をあまり知らないが、高校生ぐらいだと歴史で習う。初春の子等に思いを寄せる句です。

ユタカ

初春の空の広さや鹿島灘

今年の正月三ヶ日は晴天で風も無く穏やかであった、初日も夕茜も神々しく思え、改めて鹿島灘の広さを思う初春でもあった。私も「犬吠の遙か全円初御空」と詠みましたが、これも初春を祝う句。

今日の秀逸句

初春の空や我が身の癒え祈る
カッチャン

新年に祈ることは多いがやはり健康第一である、昨年から病の完治を祈る、年を重ねると切実な思いの句でもあります。

初春の神籤占ふ鹿島宮
ミヤ

原句は少し変えましたがこれで景の見える詠になります。お御籤に今年の自分を占いた願いの叶うを祈る、何時の時代も老若男女を問わず正月の景であり庶民の願いの句でもある。

初春や母の笑顔で迎へけり
イチ

古事記でも天照大御神は女の神様でお隠れになると世は暗くなる様に女神は太陽でもある。家庭でも母は太陽の様なもので笑顔が何より家族を元気づける、微笑ましい新春の句です。

初春や今年こそはとおめかしし
オノ

この詠は娘さんを見てのかも、娘さんも年頃になりそろそろ彼氏も欲しい頃、化粧も服も調べて初詣などに出かける。男でもだらしのない姿より身なりの綺麗なのがもてる。面白い句です。

初春の願ひ家族の寿（いのちなが）
コバ

初春の願いや祈りは多くあるが先ずは健康である、元気で在ってこそ何事も実行出来るし家族も明るい。先の大地震の様に天変地異も何時来るか知れない今、切実な思いの句でもあります。

初春や仰ぐ希望の星一つ
長吉

星は年中見れるが初春の夜空に仰ぎ見る星は神々しい、その中に耀く一つの星は昂かも。それは又、今年には叶いそうな出来事かも知れない、希望の出てきた思いの伝わる句です。

そのほかの句

初春に願ふ良い年子供達
ヒロ

初春や心あらたに明日に行く
レイコ

初春に思ひよせたる一句詠む
カツミ

初春やいよいよ寒き昨日今日
シマ

初春の願ひの一つ富士登山
チーナ

書の燃えの高さを願ふどんど焼き
イルカ

初春や花が咲くまでやや長し
ガク

屠蘇ぬきの朝を迎え大欠伸
ポチ

初詣着物姿の少なさよ
カート

初春のもぐら顔だす小庭かな
キコ

老いたれば酒の弱さよおらが春
アベ

受刑者の句

賀状書く時折り山を眺めては（北海道 章三郎）

葉書は明治六年に青江透が考案しお年玉つき葉書は昭和二十四年に始まったと云う。遠くに住む縁者に年賀と無事の挨拶を兼ねたものだが、今では会社友人など広く出す。その賀状を書きながら山など眺めて友や里を想い一筆添える文も考える実感の句です。

嶽空に一物もなき冬至かな（北海道 章三郎）

原句は少し変えましたがこれで冬至の日に晴れた嶽を眺めて、今年もいよいよ冬を迎える思いの詠になります。句の作者の住む所から見えるのは何嶽だろうか。例えば、「斜里岳に一物もなき冬至かな」とすれば誰にも解る実景の句になります。

12月のお題

年の暮

カ
ー
ト

生家見て我が身の哀し年の暮



幕末の頃、現山口県の僧月性の漢詩に「男児立志出郷関、、、」がありますが、男として故郷を出たからには錦を飾りたい、しかしそうでない場合は幼い日の夢と比較して切ない。年の暮に友人等に合うにしても尚更哀れに思う、実感のしみじみした句です。

ア
ベ

年の暮訛り聞きたし上野駅



戦後しばらくは東北方面への始発は上野駅で歌謡にもある様に年末などには故郷を指して旅立った。顔見知りの秋田青森弁も聞けたし、団塊の世代の集団就職の出発点でもある。私も五十年前を偲ぶ句。

サ
ユ
リ

年の瀬や母待つ子等に詫びる日々



童謡にもあと幾つ寝るとお正月がありますが、子供達には今でも正月近くなると心躍る、祖父母に合ったり家族の旅もあるしお年玉を貰えるのも待ち遠しい。そうした願いを叶えてやれないのは親として一番に哀しい。平凡ながらも親子で暮らすのが幸せと思う。切々とした句です。

施設長の句

ユ
タ
カ

安達太良や反す日差しの雪化粧

福島県の名山で標高千七百米の山頂の形から地元では乳首山とも呼ばれる、晴天に雪化粧した山容は乳房を彷彿させるが、それはまた郷土の母を慕う名でもある。旅の詠で美しく大景の句で、私も訪ねて懐かしい。

ユ
タ
カ

住み古りて鹿島も都初茜

十年一昔と云われる様に永く住めば都ほどに馴れる、原句は変えましたがこれで鹿島の地に住み古りて迎える新年の感慨になります。

ユ
タ
カ

高千穂の社落葉の夫婦杉

宮崎県高千穂は天孫降臨などでも知られるが、神社も千八百年前の創建と伝えられる。源頼朝の代参の畠山重忠が植えた樹齢八百年になる夫婦杉など有名。神話の時代を思う旅の詠で老杉の落葉も神々しい。

今月の秀逸句



老いてなほ尽きぬ煩悩除夜の鐘
ヤ マ

人には百八の煩悩があると云われるが、仏界には八万四千もあるとも。年を重ね人生を学べば煩悩も捨て悟りの境地に至りたいが難しい、除夜の鐘を聞いても尚苦悩する、俳諧の句です。

故郷に似たる空だよ年の暮
コ バ

句の作者の故郷は何处だろうか、盆正月には帰省ラッシュが始まり人は故郷を目指す。東の間の故郷の空や山河に心を温める。帰れない人は故郷に似たこの地の空を眺め郷を懐かしむ。しみじみした句で私も故郷を離れて久しい。

年の暮背中の荷物置いて飲む
ユ キ

年の市にでも買出しに行った帰りの母を思い出す様な詠ですが、何か重たい荷物でも背負っての帰りかも。途中で荷物を下ろし、水でも飲む、年の暮だけにいろいろ想像もし里の道など懐かしい句です。

大掃除済ませたる部屋年迎ふ
チーナ

年の暮には何处の家や会社でも掃除をし飾りつけなどをして新年を迎えるが、ことに自分の部屋は綺麗にする。それによって来年への心構えも決まる実感の句です。

年の暮いつまで着れる派手な服
ジュリー

年の暮に新年に着る服を買いに街へ行く、また年を重ねる自分には派手な服は着れないかとも思う、派手な服を着るのも若さであるから年を重ねるのが怖い。女性らしい思いの句です。

年の暮今年もまたも一人かな
ソ ラ

人間は難しい動物で大勢でも居ると一人が良いと思い、一人だとだと寂しい。若い時は恋をし老いても助け合いながら過せたら幸せと思う。正月などは家族と祝うのが望ましい。切たる句です。

年の暮年の暮れとて暮れにけり
コ ジ

原句は少し変えましたがこれで言葉遊びにならず今年もいよいよ終る感慨の句になります。日常の細かい事でも詠む時に心を込めれば感動の句になります。

お歳暮や顔を想ひつ品選び
オ ノ

歳暮は世話になった人や会社などに今年の礼と来年の願いも込めて贈るが里の祖父母などにもする、あの人には、祖父母にはと顔を思い浮かべながら品選びをする。微笑ましく実感の句です。

佳句

街に出て我も忙しき年の暮 ヒロ

顧る葉断ちし日年の暮 カツ

年の暮今年断ちたる葉かな ベム

顧る月日の早し年の暮 サトシ

年の暮うなずき思ふ流行語 ノリ

曖昧に生きて今年の年の暮 マーシャ

年の暮ベンチより見る星の空 長吉

年の暮八重の桜に魂思ふ トミー

年の暮皆で鍋を囲みたき イチ

かすみたる今年の決意年の暮 ヒデ

年の暮寝るしか他になかりけり ダイ

年の暮酒の飲めぬはは辛き日々 フミ

しみじみと年越蕎麦の旨さかな コウタロウ

年の暮金もなければ酒も無し カズ

年の暮酒を飲まざる我が身かな シモ

年の暮酒も寒さも耐えにけり イルカ

気持ちだけ先走りかな年の暮 レイコ

また一歩あの世に近かく年の暮 ヨシハル

年の暮今宵切なしわが心 トウ

北浦に仰ぐオリオン年の暮 ツカ

山小屋の床の下なる虫の声 カッチャン

年の暮明日は我が身に胸躍る チャー

恋すれば苦勞も耐えて年を越す アキラ

休みなし気付けばすでに年の暮 エン

恋人にマフラーを編む年の暮 シマ

年の暮一人暮らしは寂しいね ポチ

彷徨える仲間の夢見年の暮 トンボ

あれやこの服など選ぶ年の暮 マッチャン

どっこい

私も生きてます～我が回復記～

「依存症のカツミです」①

潮騒での回復生活で「人生に絶望はない！」を教えられる

さて、夢も希望もない八方ふさがりだった私が潮騒JTCにつながった経緯を記します。前号で述べたように土地の先輩が私のために「指詰め」しており、長引く無茶ぶりの生活によって人生が破綻しかけ、もはや慣れ親しんだ地元から所払いになったことがきっかけでした。

それでいながらも、独り見知らぬ土地で生きてきた私には行く当てもなく、思い切って役所に相談しようと決めました。その道すがら10数年ぶりに栗原施設長とすれ違うように再開があったのです。私の置かれたすさんだ境遇を話したところ、「ウチでやっていかないか」と言葉を掛けてもらい、潮騒へとつながった次第です。栗原施設長とは昔、ある刑務所で同工、同房にて寝食を共にした、いわば懲役仲間です。この再開に私は不思議な運命を感じました。

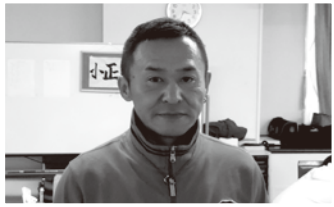
潮騒JTCへの入所が決まり、私自身の回復に向けての生活が始まったはずなのに、長い間の“依存”生活は回復のプログラムに取り組むどころか、表向きうまくやるための隠れ蓑のような利用対象にしか施設を考えませんでした。しばらくは毎晩のように寝酒代わりに缶チューハイを飲み、仲間を集めてはクスリを乱用していました。

挙げ句の果てに施設を飛び出して自分振り込みの生活保護費を使い込み、約10日の脱走期間中に飲み打つのスリッパ(再使用)ざんまいとなり、当然ながらボロ雑巾のように何もかも失い、またもやボロボロになって再度依存の怖さを知り、施設にSOSを出したのです。

どうやらあれが私の「底つき」だったと、振り返って思います。そうして潮騒JTCで再出発のチャンスを与えられ、その後は曲がりなりにもプログラムに取り組めて、現在クリーンタイムは1年のバースデイを迎えようとしています。まさに「人生に絶望はない！」ことを教えられています。ありがとうございました。(終わり)

1月のバースデイ

カイジ



人生に一度しか来ない歳の誕生日、大切にします。

キク



いろいろあんだよ。

タケシ



がんばるぞ

トミー



早く出たいです。

ノボル



体に気おつけます。

ポチ



上から読んでも山本山。

マーシャ



施設に入って2回目の誕生日です。うれしいやら、悲しいやら

ユウ



眠い



1月の行事予定

- 12・18日 秋元病院へのメッセージ
- 20日 とまりぎアルコール相談業務
- 21日 長野刑務所職員視察
- 23日 映画会（10月・11月・12月）
- 25日 NA 北海道エリアセミナー
- 26日 家族会
- 27日 誕生会
- 30日 映画会（1月）

2月の行事予定

- 3日 豆まき
- 7日 俳句会
- 8日 三重ダルクフォーラム
- 9・15日 秋元病院メッセージ

編集後記

今年は「馬」年(干支では「午」)です。大草原を疾駆(しゅく)する駿馬(しゅんめ)のように2014年の1年間を駆け抜けたいと思いますが、現実(じつ)はそれを許しません。「もう年だから」と年齢を言い訳にしたいはないのですが、ご多分に漏れず身も心くたびれてきて思うに任せないのが当方の現実です。無意識に「無理はすまい」「年相応に生きよう」という自己防衛本能が働きます。でも、日本は老いてもなお目標を決め、人生を充実(じゅうしん)していなくてはいけない、という脅迫観念(きょうぱくねん)が強い社会です。死ぬまで「充実」や「意味」を求めたがります。死ぬまで自然年齢に抗(あらが)うことを運命(めいめい)づけられるのはつらいものです。政治も経済も文化も、何もかもが余裕を失っているこの国で、依存症(いそんしやう)を病む人は、もしかしたら幸福(しあふ)な人生を手(て)にしているのかもしれない。明日(あした)のことは考えず、とりあえず「今日(けふ)一日」を生き抜くことがすべてなのです。当方も、せめて余生(よせい)は自然体(しぜんたい)で気楽(きらく)に「いい加減(いっかげん)」に生きようと思います。(市)

献金を頂いた方（1月10日現在）

・坂西ミヤ 様 ・スピリット百瀬 様

献品を頂いた方（1月10日現在）

・小林 久裕 様 ・堀内 誠 様 ・桐本 石見 様
・青野 光夫 様 ・高田 武義 様

その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを
実践することができておりますことをご報告いたします。

今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 どっこい生きてます！



Contents

- P② 2014 年を新たな介護事業分野にチャレンジする年に
- P③ 恒例の鹿島神宮への初詣で&新年会
- P④ 潮騒餅つき大会
- P⑥ ファイザープログラム
プログラムとスポンサー、仲間が仕事を可能にする
病院職員の藤田さんが就労講座で希望のメッセージ
- P⑧ 年末恒例のクリスマスイベント
- P⑨ 受刑者からの手紙
- P⑩ しおさい俳壇 1月
- P⑫ しおさい俳壇 12月
- P⑭ どっこい私も生きてます！～我が回復記～

■編集・発行：

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

